

2009 年度若手の会 開催後記

2009 年度若手の会が 8 月 27 日に、研究所 2 階会議室において開催された。

鈴木研究所長の開会の挨拶の後、発表&討論が行われた。演題数は 22 題で去年と同数であった。今回から、発表の順番・形式の変更を試みた。特に形式は通常の学会のポスター発表のように、ポスターの前にて大勢の研究者の前で発表・質疑応答を行った。また、5 分発表（前年まで 3 分）、3 分質疑（前年までなし）と発表時間の延長と質疑応答を試みた。途中、コーヒブレイクをはさみ後半を行った。英語での発表者も少数いた。発表者の研究内容は老化・老年病に関わる基礎科学、臨床科学から介護、看護、医療工学や政策医療と多岐にわたるものであった。変更は賛否両論あったが、順番の変更は年ごとに变化させた方が、かなり広い分野の研究者が集まるため、よいのではないだろうか。また、発表方式の変更は、いきなり初歩的質問がしにくい事もあった。しかし、多くの人前で、発表そして質疑応答は従来なかったため、よかったような気がする。その後、自由討論、投票（優秀賞、奨励賞）を行った。最後に鈴木所長による表彰（発表者全員への参加賞、優秀賞、奨励賞）、柳澤副所長による閉会の挨拶があった。

次回への方向として、更なる形式の変更、英語でのポスター作製・発表等改良を重ねていければと思う。本センター研究所は比較的小規模だが、多くの広い領域をカバーする。しかし、各研究部や省令室を超えた研究所全体の交流の場・機会が極めて少ないため、毎年行われる本会はこの枠を超えた研究者間の議論、相互理解、交流を活発にさせ、若い次世代の研究者の自身、意欲を促進させる役割を果たすとともに、研究所内共同研究、新規研究シードの発掘、各人の実験手法の改良の契機となってきたと思われる。そして、長寿社会への貢献、国民に還元できる研究、なおかつ国際的に高いレベルでの発表ができるようになれば幸いである。2009 年度の本会も同様の効果があったと期待したい。

（文責：老化制御研究部長 今井 剛）